

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

化学

総括	試験時間	教育(理) 90分<1科目>, 他 180分<2科目>	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	満点(配点)	総人(理)・理・医(人間健康)・薬・農 200点, 教育(理) 100点, 医(医) 300点, 工(物理B・電気電子B・情報Bを除く) 250点 工(物理B・電気電子B) 400点, 工(情報B) 150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年に比べると、論述量、問題量が減少し、時間内に解ける妥当な出題となった。

〈特記事項・トピックス〉

特に難問はなかった。これは昨年の反省(反動?)であろうか。

〈合格への学習対策〉

とは言うものの、京大の通常レベルからすると標準ということであり、決して易しいわけではない。基礎をしっかりと学ぶと同時に、応用力を高めるよう常に過去問を研究することが大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	I・II	理論化学 電子式と分子構造 実在気体	電子対反発則による分子構造の推定法は、全国的にもよく出されている。O ₃ についての電子式は少しとまどった人がいたか? 実在気体についての出題は約 20年ぶりである。	標準
II	記述	I・II	理論化学 $H_2 + I_2 \rightleftharpoons 2HI$ について、速度と平衡に関する計算、グラフの解析	$H_2 + I_2 \rightleftharpoons 2HI$ は、使い古された素材であるが、なんとか新しい切り口で出題しようとした問題である。ゆっくり読めば、解くことは十分にできる。	標準
III	記述	I	有機化学 芳香族化合物の構造決定 C ₆ H ₁₃ Cl, C ₆ H ₁₂ の異性体	特に難しくはないが、異性体をしっかり書き上げる力が要求される。	標準
IV	記述	II	有機化学 グルコースの化合物の性質と構造決定	グルコースがグリコシド結合で糖以外の物質とつながった化合物(配糖体)を素材にした問題である。素材は少し目新しいが、糖の反応を学んでおけば十分に対応できたであろう。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。